

## 1. 開催概要

展覧会名	プラド美術館展	
開催施設名	会期	入場者数
三菱一号館美術館	平成27年10月10日～平成28年1月31日	186,968人
<p>●開催概要</p> <p>プラド美術館は、約200年にわたりスペイン王室が蒐集した極めて高い質と規模のコレクションで知られる。本展は、2013年にプラド美術館で開催され好評を博した展覧会を、日本の観客の為に特別編成したもので、プラド美術館の膨大なコレクションから選りすぐったゴヤ、ベラスケス、エル・グレコら巨匠の作品を中心に102点で構成した。</p> <p>美術品補償制度が適用され、保険料負担が軽減されたことにより、ゴヤ「傷を負った石工」、ベラスケス「フランシスコ・パチーコ」など作品の質と規模をより充実させることができ、「プラド美術館のダイジェスト版」ともいうべき展示が実現できた。</p> <p>内容について、「プラド美術館から届いた、繊細で緻密な美」(『フィガロ ジャパン』2015年12月)、「小さな絵画ならではの魅力あふれる名作を、隅々までじっくり堪能してほしい。細部に注目することで、引いて見た時とは違う驚きや発見があり、いっそう楽しめる」(『クロワッサン』2015年12月10日)、「本展で、私は19世紀スペインの素晴らしい画家を知ることができた。マリアノ・フォルティニ・イ・マルサルである」(安村敏信、『芸術新潮』2016年1月)などメディアからも好評だった。</p> <p>一般来場者を対象にしたアンケートでも「ムリーリョのロザリオの聖母が素晴らしかった」「スペインに旅行し、プラド美術館を訪れたが、その時に見ることができなかった絵画を鑑賞できて良かった」などと好意的な意見が多数を占め、来場者数も18万人を超えた。この来場者数は、三菱一号館美術館としては、総入場者数、1日平均来場者数ともに開館以来3番目の多さであり、多くの国民に広く美術鑑賞の機会を提供できたと言える。</p> <p>※入場者数には開会式、内覧会等を含まない</p>		

## 2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

以下のとおり、国民的利益の還元に努めた。

### (1) 展示作品の質・量の充実

補償制度を適用したことにより、20点しか真筆が存在しないと言われるヒエロニムス・ボスの「愚者の石の除去」をはじめ日本初公開の作品の出品が可能となり、プラド美術館の所蔵品の魅力をより充実した形で紹介することができた。

### (2) 鑑賞環境の維持、鑑賞機会の拡大

本来休館日だった、平成27年12月28日、29日、30日を開館し、展示環境を適正に維持しながら、広く国民に鑑賞機会を提供することができた。

### (3) 教育普及活動の充実

プラド美術館学芸員を招聘して記念講演会を開催したほか(10月10日、参加約120人)、担当学芸員によるレクチャー(12月11日、参加約120人)、美術館教育普及担当によるギャラリートーク(10月27日、11月10日、11月17日、参加それぞれ15名)を実施したほか、ジュニア版ガイドの作成、スクールプログラムの実施や音声ガイドの英語版作成を行い作品への理解を深める環境を整えた。また、都内小学校(青山学院初等部)の美術部所属の学童と保護者を招いて閉館後の特別鑑賞会を実施した(12月10日、参加79名)。

### (4) 入場料の無料化・軽減

三菱一号館美術館としてはじめて小・中学生の入場料を無料化した。開催101日間で合計2,091人が来場、家族で作品を熱心に鑑賞する姿も見られ、美術教育の普及に役立つことができた。

### 3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

なし

### 4. 安全配慮に関する特別の対応

プラド美術館や三菱一号館美術館、輸送業者と十分に協議し、輸送、搬入、搬出時には警備員を特別に配置するなど万全の体制で輸送・展示作業にあたった。また、海外輸送時に関しては、現地の輸送会社、国内の輸送会社と連携して、各ポイントで作品が安全に輸送されていることを確認した。作品が小さい分、近づいて鑑賞する人が多いため、監視スタッフに十分な指導を行い、また、入場者数の増加に伴い入場制限を行うなどして作品の保全に努めた。

### 5. 紹介事例・今後の改善点等

今回借用した102点の作品は、海外展示が難しい板絵35点が含まれ、また84点が日本初公開という充実したものだった。世界有数のコレクションを誇るプラド美術館からこうした貴重な作品を借用できたのは、補償制度の適用による経費の削減のみならず、適用によってプラド美術館の信頼を得たからだと考える。「広く国民に優れた美術品鑑賞の機会を提供する」という制度趣旨に沿うことができたとともに、制度趣旨に鑑み、開館日数を増やしたことによって、鑑賞機会拡大に大きく寄与したと考えられる。

本展が本制度の適用を受けていることについては、チラシやホームページなどで広く告知したほか、会場入り口看板などにも記載して来場者に広く周知を図った。

三菱一号館美術館にとって、初の本制度適用展覧会であり、本制度の適用を会場で紹介することによって、同美術館のリピーターに対して本制度についての認知度を高めることができたと自負している。

## 6. 展覧会の収支決算書

主催者名

三菱一号館美術館、プラド美術館、読売新聞社

### ●収入

内 訳	決算額 (当初予算額)
展覧会収入・その他の収入	223,683,101
共催者負担	131,695,928
収入総額	355,379,029

### ●支出

内 訳	決算額 (当初予算額)
企画準備等基本経費	260,907,399
設営・運営等会場関係費	94,471,630
	355,379,029